

主なインフラ運営事業

総合インフラサービス企業を牽引する事業として、インフラ運営事業は国内トップレベルの実績を有しています。これまで多様な分野（有料道路、下水道、工業用水道、空港、スタジアム・アリーナ）のインフラ運営で培ってきたノウハウを蓄積するとともに、グローバルなパートナーシップを軸に世界トップレベルの知見や最先端技術を実装することでインフラの老朽化や地方創生などの社会的課題に取り組んでいきます。

愛知道路コンセッション



国家戦略特区による日本初の有料道路コンセッション事業です。プロフィットロスシェアリング※を採用し、安定したキャッシュフローを創出しています。また、インフラ運営の実証実験フィールドとして、物流車両の映像データと振動データをAIで分析し、損傷個所をマッピングするなど効率的な道路修繕の実現を図っています。

※ 受発注者間で事前に取り決めた条件で収益及び損失を分配する仕組み

発注者	愛知県道路公社
SPC	愛知道路コンセッション株式会社
出資者	前田建設(50%)、森トラスト(30%)、大和リース(10%)、セントラルハイウェイ(8%)、大和ハウス工業(2%)
事業期間	2016年10月から約30年間
施設概要	知多半島道路、南知多道路、知多横断道路、中部国際空港連絡道路、衣浦トンネル、猿投グリーンロード、衣浦豊田道路、名古屋瀬戸道路(総延長72.5km)
業務内容	維持管理・運営、改築、附帯事業、任意事業

<https://www.arcc.jp/>

みおつくし工業用水コンセッション



日本で初めて、民間事業者が経済産業大臣から許認可を受けて運営するコンセッション事業です。管路や浄配水設備の点検・維持管理・更新、料金収受も含めた一体的な事業です。管路の状態監視保全技術を用いた修繕や浄配水場ベンダーロック解除によるコスト削減など最先端の取り組みを行っています。

発注者	大阪市水道局
SPC	みおつくし工業用水コンセッション株式会社
出資者	前田建設(71%)、日本工営(25%)、NTT西日本(3%)、東芝インフラシステムズ(1%)
事業期間	2022年4月から10年間
施設概要	浄水場：東淀川浄水場 配水場等：桜宮配水場、鶴見配水場、北港加圧ポンプ場 配水管：大阪市内一円(292km)
業務内容	事業運営・施設管理全般 (契約、料金徴収、浄配水場施設や配水管の更新・維持管理、給水施設工事等)

<https://www.osakakousui.com/>



> 三浦下水道コンセッション

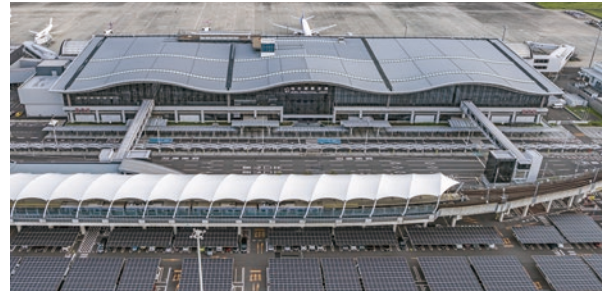


日本初となる処理場、ポンプ場、管路を含む公共下水道施設全ての運転・維持管理・更新を含んだコンセッション事業です。インフラ運営の実証フィールドとして、最先端テクノロジーを実装し、維持管理・更新に係るライフサイクルコストを最小化する取り組みを行っています。

発注者	三浦市
SPC	三浦下水道コンセッション株式会社
出資者	前田建設(49%)、東芝インフラシステムズ(20%)、クボタ(20%)、日本水工設計(10%)、ウォーターエージェンシー(1%)
事業期間	2023年4月から20年間
施設概要	東部浄化センター、金田中継センター、管路(59km)、マンホールポンプ(14か所)
業務内容	公共下水道の経営、改築(土木建築、機電、管路)、処理場・ポンプ場の維持管理、管路の維持管理、各種計画(下水道事業計画等)策定支援

<https://www.miuragesuido.com/>

> 仙台国際空港コンセッション



日本初となる国管理空港のコンセッション事業、かつ、東日本大震災復興の象徴的な事業です。官民の強い連携と民間のノウハウを活用し、東北の玄関口にふさわしい旅客・貨物取扱能力を備えた基幹交通インフラとして経済社会の発展や地域活性化に大きく貢献しています。

発注者	国土交通省航空局
SPC	仙台国際空港株式会社
出資者	東急(42%)、前田建設(30%)、豊田通商(16%)、東急不動産(9%)、東急エージェンシー(1%)、東急建設(1%)、東急コミュニティー(1%)
事業期間	2016年7月から33年間
施設概要	空港基本施設、空港航空保安施設、駐車場施設、各施設に付帯する施設等
業務内容	空港運営等事業(空港基本施設等事業、空港用地等管理業務)、空港航空保安施設運営等事業、環境対策事業、その他附帯事業、ビル施設等事業

<https://www.sendai-airport.co.jp/company/>

> IGアリーナ



愛知県名古屋市の名城公園内に位置する、日本初の「BT+コンセッション」を採用した事業です。このスキームにより、30年間の運営を見据えた設計・施工が可能となります。世界トップクラスのアリーナ運営実績とスポーツチームを所有するAnschutz Entertainment Groupの知見を取り入れたグローバル水準の施設として2025年7月に開業しました。

発注者	愛知県
SPC	株式会社愛知国際アリーナ
出資者	前田建設(54.1%)、NTTドコモ(24.1%) [設計建設段階] NTTドコモ(51.1%)、前田建設(28.1%) [運営段階] Anschutz Sports Holdings(10%)、三井住友ファイナンス&リース(5%)、東急(2%)、中部日本放送(1.9%)、日本政策投資銀行(1.9%)
事業期間	設計・建設：2021年7月～2025年3月 運営：2025年4月～2055年3月
施設概要	建設用途：体育館、観覧場、便益施設(飲食店・売店等) 建築面積：約26,500㎡
業務内容	施設整備、維持管理、運営、便益施設運営

<https://www.ig-arena.jp/>